



新型コロナウイルスのもとで Part2 ~こんな工夫・取り組みをしてきました(会務編)~

〈vol.8〉

オンラインのメリットを生かして(憲法センター)

会員 津田 二郎 (57期)



私は、まさにコロナ禍の2020年4月から憲法問題対策センター(憲法センター)の事務局長に就任しました。

私は致命的に人の顔と名前が覚えられないので、リアルな会議だと顔も名前もわからず指名しづらいところがあります。しかし、オンラインを利用した場合、参加者には名前がついているので、ご意見を拝聴したい場合にはとても便利です。委員会に出席するための移動時間を節約することができるため、オンラインでの会議参加には需要があると思います。

また、オンラインの参加者は、ただ接続だけして聞き流しているだけなのかとったりもしたの

ですが、最近そうではないことがわかりました。というのは、会議の途中で司会の私がおもむろに「こーんにーちはー」といって耳に手を当て、コールアンドレスポンスを求めると、皆さん声には出さないものの画面上で何らかのレスポンスをさせていただけるからです。

当会が日弁連、一弁、二弁と共催で毎年5月に開催する四会憲法記念行事も、2020年、21年はリアルではなくオンライン配信で行いました。オンライン配信では、会場に来られないような遠方の方に視聴していただくことができ、宣伝をうまく行えば大きな発信力を得られることを学びました。

一方で、対面のメリットも否定しがたく、コロナ禍明けには、ハイブリッド方式でいいところ取りをした会議運営ができれば、と思います。



こちらから読んでね

こいのぼりのように

